

日本・スウェーデン外交関係樹立150周年  
**インゲヤード・ローマン展**  
 Sweden-Japan 150th Anniversary **Ingegerd Råman**  
 2018年9月14日 [金] - 12月9日 [日]



北欧を代表する世界的デザイナー／陶芸家を紹介する  
 日本初の大規模展覧会



図版No.1: スタジオでのインゲヤード・ローマン

北欧を代表する世界的デザイナーであり、陶芸家としても知られるインゲヤード・ローマン（1943年、ストックホルム生まれ）。

機能性を重視した日常づかいのガラス食器や陶磁器は、色も形もきわめてシンプルですが、一貫して凛とした美しさと、一人の使い手としての真摯な視点が感じられます。

日本とスウェーデンの外交関係樹立150周年を記念して開催する本展では、2016年にスウェーデン国立美術館で開催された展覧会をベースに、木村硝子店のためのシリーズ（2017年）などの最新作を加え、その幅広い活動を日本で初めて本格的に紹介します。

北欧の伝統あるガラスメーカーSkruf（スクルフ）やOrrefors（オレフォス）、イケアのためのデザイン、日本でのプロジェクト、建築家との協働プロジェクトまで、作家自身が選んだ代表作約180点を通して、自らを“form-giver”（形を与える者）と呼ぶ彼女の物づくりの魅力に迫ります。日常とデザインを切り結ぶ彼女の豊かな思考に触れるまたとない機会となるでしょう。

### 本展のポイント

- 本展は、スウェーデンを代表する女性デザイナーであり陶芸家としても活動するインゲヤード・ローマンを本格的に紹介する日本初の展覧会です。
- 出品点数は、約180点。インゲヤード・ローマン自身が選んだ代表作を中心に、陶磁器、北欧の伝統あるガラスメーカーSkruf（スクルフ）や Orrefors（オレフォス）、イケアのためのデザイン、彼女が特別な関心を持つ日本での「2016/」プロジェクトや木村硝子店とのコミッションワークなど、その幅広い活動をご覧いただけます。
- 本展は、2016年にスウェーデン国立美術館で開催され好評を博した「インゲヤード・ローマン展」をベースに、初期から2017年の最新作まで一挙にご紹介。さらにインゲヤード・ローマン自身による工芸館の展示和室（設計：谷口吉郎）での特別展示など、日本展だけの新たな内容も予定しています。
- 展示デザインを手掛けるのは、世界的に注目されている気鋭の北欧建築家グループ「Claesson Koivisto Rune（クラーション・コイヴィスト・ルーネ）」。ストックホルムのグッチやルイ・ヴィトン、京都のスフェラ・ビルといった建築、ベルリンのスウェーデン大使館のインテリアデザインなどを手がけ、建築分野にとどまらず活躍の場を広げています。



図版No.2：  
《ボウル》 2016年 インゲヤード工房

## “My work is always a link between simplicity, function and aesthetic values.”

シンプルであること、機能的であること、そして美しさ、それをつなぐのが私の仕事。  
インゲヤード・ローマン

### 陶芸家としてのインゲヤード・ローマン

1960年代にイタリアで陶芸を学んだローマンは、南スウェーデンの自宅にかまえた工房で陶器を製作しています。初期の頃から現在まで繰り返し手がけている《ボウル》は、自分のことを「Ceramic artist（陶芸家）」ではなく、Potter（陶工）」というローマンにとって、特別な存在。轆轤（ろくろ）に向かう自身の手と陶土のあいだから生み出される形が、その時々自分を映し出すのだといいます。陶工として培った土や釉薬、焼成についての経験と知識は、陶磁器のデザインにも生かされています。

### ガラスメーカーとのデザインワーク

ローマンは、湖と森林に囲まれた自然豊かな国スウェーデン生まれ。「水」は生活に密接にかかわっており、人間にとって不可欠な水は、作家にとって大切なデザインコンセプトの一つ。ローマンが手がける仕事の中でそれを特に意識させるのがガラス製品のデザインです。

ローマンは、1980年代以降、スウェーデンを代表する伝統あるガラスメーカーSkruf（スクルフ）社やOrrefors（オレフォース）社へデザインを提供し、数々の賞を受賞しています。

デザインにあたっては、まず「自分が使いたいもの、使い勝手の良いもの」を考え、「使われてはじめてデザインの価値が生まれる」という作家の理念に基づいて、中には発表以後も作家自身が日々使い続け、デザイン修正を重ねているものもあります。



図版No.3：  
《コニャック・バルーン・グラス》  
1996年 スクルフ

### インゲヤード・ローマン 略歴

1943年	ストックホルム（スウェーデン）生まれ
1962年	「スウェーデン家具の父」と言われる家具デザイナーのカール・マルムステンが創立したカペラゴーデン手工芸学校（スウェーデン）で学ぶ
1962-65、66-68年	Konstfack（コンストファク/スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学）で学ぶ
1965-66年	ファエンツァ国立陶芸学校（イタリア）で学ぶ
1967年	南スウェーデン・スコネで陶業製作を始める
1968-72年	ガラスメーカーJohansfors（ヨハンスフォース）社に在籍
1981-98年	ガラスメーカーSkruf（スクルフ）社のデザイナーとして活動
1983年	グラスジャグ、ロウソク立て（ともにスクルフ社）でエクセレント・スウェディッシュ・デザインアワードを受賞（以後、受賞を重ねる）
1995年	スウェーデン政府よりプロフェッサーの称号を授与
1998年	芸術のすぐれた業績に対しスウェーデン王室よりプリンス・オイゲン・メダルを授与
1999年-	ガラスメーカーOrrefors（オレフォース）社のデザイナーとして活動を開始
2016年	イケアより VIKTIGT/ヴィークティグト コレクション発表 有田焼創業400年記念事業「2016/ project」に参加
2017年	木村硝子店よりインゲヤード・ローマン コレクション発表



図版No.4：  
《ボウル》 1999年 インゲヤード工房

## イケアとのコラボレーション

スウェーデン発祥の北欧家具ブランド、イケアとのコラボレーションで生まれた VIKTIGT/ヴィークティグト コレクション。ローマンが得意とするガラスや陶器セットの他、作家がはじめて手がけた竹素材を含む天然素材を使った家具やバスケットなど、約40アイテムが発表されました。

すべてのアイテムが大量生産ではなく、職人の手仕事によりつくられています。ローマン自身も生産工場に赴き、職人との共同作業によりデザインを完成させました。



広報用図版No.5(左):《VIKTIGT/ヴィークティグト ペンダントランプシェード》2016年 イケア  
広報用図版No.6(右):《VIKTIGT/ヴィークティグト 皿》2016年 イケア

## インゲヤード・ローマンと日本

1982年の初来日以来、日本に特別な関心を持つローマンは、日本でもいくつかの協働プロジェクトを手がけています。

2016年には、有田焼創業400年事業として、世界で活躍するデザイナーと有田の窯元の職人技術を融合させ有田焼の新たな魅力を発信する「2016/」プロジェクトに参加。明治8（1875）年創業の香蘭社とのコラボレーションによってスタッキングしても美しい《ティー・サービス・セット》を発表しました。一見ベーシックに見える白と黒の釉薬もこのプロジェクトの為に特別に開発されたもの。ローマンの着想と経験値、そして有田の伝統的な職人技術が一体化し、新しい有田焼が生み出されました。



図版No.7:《ティー・サービス・セット》2016年  
2016株式会社

1910年創業の木村硝子店は、プロのためのガラス製品を企画開発する老舗の硝子店。ローマンと長年交流を深めていた木村硝子店代表が「自由にデザインしてほしい」とローマンにアプローチをし、2017年に11種類のアイテムが誕生しました。

《THE SET》は、重ねて収納した時に蓮の花のように見えるようデザインされています。



図版No.8:《THE SET》2017年 木村硝子店

参考図版



## 世界的に注目のデザイナー「CKR」による展示デザイン

「CKR」は、Marten Claesson（モーテン・クラーション）、Eero Koivisto（エーロ・コイヴィスト）、Ola Rune（ウーラ・ルーネ）の3人のデザイントリオにより1995年にストックホルムで設立された建築設計事務所。ローマンの工房設計も手がけています。本展開催に際して工芸館を実際に視察し、会場スペースにあわせたプランニングがおこなわれています。本展限りのローマン作品×CKR×築約100年の赤レンガ建築とのコラボレーションをお楽しみください。

参考図版

## 展示和室（設計：谷口吉郎）での特別展示

工芸館の展示室の特徴である「展示和室」は、モダニズム建築家の谷口吉郎が日本の工芸が和室とどのような関係にあるかを示す場として設計しました。本展では、作家自身が和室をつかった展示をおこないます。どのような展示空間になるのかは、展覧会までお楽しみです！



## 開催概要

展覧会名(日)	日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 インゲヤード・ローマン展
展覧会名(英)	Sweden-Japan 150th Anniversary Ingegerd Råman
会期	2018年9月14日[金] - 12月9日[日]
会場	東京国立近代美術館工芸館 (千代田区北の丸公園・竹橋) 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
主催	東京国立近代美術館、スウェーデン国立美術館
特別協賛	ボルボ・カー・ジャパン株式会社
協賛	イケア・ジャパン株式会社 エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社
協力	日本航空
後援・協力	スウェーデン大使館
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日 (9/17、9/24、10/8は開館)、9/18[火]、9/25[火]、10/9[火]
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分
観覧料	一般600円(400円) 大学生400円(200円) 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。 *( )内は20名以上の団体料金。及びキャンパスメンバーズ特典料金。いずれも消費税込。 *割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、会員証、社員証、障害者手帳をご提示ください。 <b>無料観覧日：11月3日(土・祝)文化の日</b>
イベント	●2018年10月27日(土) インゲヤード・ローマン氏 講演会 午後2時から  ●会期中 水・土曜日 タッチ&トーク 午後2時から約60分 工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。インゲヤード・ローマン作品を実際にさわりながら鑑賞できるくさわってみようコーナーと会場トークの2部構成で、さまざまな角度から展覧会の見どころを紹介します。申込不要・参加無料(要当日観覧券)。  ※詳細およびその他のイベント情報は、MOMAT公式HPにて随時お知らせします。

## ■東京国立近代美術館工芸館について

工芸館は、日本で最初の国立美術館である東京国立近代美術館の分館として、昭和52(1977)年に開館しました。総数約3,800点(平成30年3月31日現在)を収蔵し、近現代の工芸およびデザイン作品を全般にわたって幅広く収集をおこなっています。工芸館の赤レンガの建物は、明治43(1910)年に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、現在、重要文化財に指定されています。2020年、石川県金沢市へ移転予定。



報道関係の方の  
お問合せ先

## 東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/中尾、野見山 広報担当/島田

Tel: 03-3211-7781 (工芸課直通) E-mail: koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

<http://www.momat.go.jp>

**広報用図版 請求票**

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当 行  
 発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品 (すべてインゲヤード・ローマン作、スウェーデン国立美術館蔵)
	1	スタジオでのインゲヤード・ローマン photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	2	《ボウル》2016年 インゲヤード工房 photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	3	《コニャック・バルーン・グラス》1996年 スクルフ photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	4	《ボウル》1999年 インゲヤード工房 photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	5	《VIKTIGT/ヴィークティグト ペンダントランプシェード》2016年 イケア © Inter IKEA Systems B.V.
	6	《VIKTIGT/ヴィークティグト 皿》2016年 イケア © Inter IKEA Systems B.V.
	7	《ティー・サービス・セット》2016年 2016株式会社 photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	8	《THE SET》2017年 木村硝子店 photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	9	《花瓶》2003年、2004年、2009年 オレフォス photo: Anna Danielsson/Nationalmuseum Stockholm
	10	《VIKTIGT/ヴィークティグト》2016年 イケア © Inter IKEA Systems B.V.
	11	「日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 インゲヤード・ローマン展」チラシ



図版No.11:「日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 インゲヤード・ローマン展」チラシ



図版No.9:《花瓶》2003年、2004年、2009年 オレフォス



図版No.10:《VIKTIGT/ヴィークティグト》2016年 イケア

※作品名、制作年、製作者・メーカーなど の順に記載。

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXでお送りください。
- ・図版はJPEGデータをご用意しています。使用する場合は、指定されたクレジットを併記してください。
- ・図版は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行わないでください。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

御芳名 \_\_\_\_\_ 貴社名 \_\_\_\_\_

出版物・放送番組・webサイト名など: \_\_\_\_\_

URL <http://www.> \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

E-MAIL \_\_\_\_\_

\*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。

プレゼント用招待券を 希望する ( 5 組 10 枚 ) / 希望しない

招待券送付先: 〒 \_\_\_\_\_

報道関係のお問合せ先

東京国立近代美術館工芸館 広報担当/島田

TEL : 03-3211-7781 (工芸課直通) FAX : 03-3211-7783

E-mail : kogeipr@momat.go.jp 公式HP: <http://www.momat.go.jp>